



はなのき

神坂小学校だより No.11 2026.1.23



大人になった時に、本当に必要な力とは

校長 伊藤 博章

明けましておめでとうございます。昨年は本校の教育に、温かいご理解とご支援をいただき、誠にありがとうございます。

子供たちが神坂小学校の児童として過ごすのも、いよいよ残り2か月となりました。「やりぬく」の合い言葉のもと、これまでの学習の成果をまとめ、学びを支えてくれた人々に感謝し、一人一人の課題をやりぬくことで自己肯定感を高めてほしいという願いを、冬休み明けに子供たちに伝えてスタートをしました。

残りの2か月、子供たちが「できるようになったこと」を増やしながらか、たくましく成長することを願って取り組んでいきます。これからもご支援とご協力をお願いします。

さて、先日読んだ本にとっても共感できる文章があったので紹介します。

大人になった時、人生の幸せをつかむには、「わからないことをわからないと言える」力が必要です。「わからない」という言葉を言える力は、自分のプライドを捨て、自分を受け止めてもらおうとする力です。また、相手の話に耳を傾けて素直な気持ちで聞くことができるのも、大事な力です。

大人になれば、違う意見を持ち合う者同士であっても、折り合いをつけながら「わからないこと」を解決しなければなりません。それは、社会人として生きていくために、また、人間関係づくりにおいても、一番重要な部分でしょう。「困ったこと」や「わからないこと」を簡単に言えるような人間関係を様々な場で作りあげていくことが、これからの人生において大きな力を獲得することにつながります。

「誰かわからない人はいない？」と言える能力と、「わからないから教えて」と言える能力のどちらが実社会で重要でしょうか？おそらく、「わからないから教えて」と言う方が頻度も多いし、重要度も高いと思います。「わからないから教えて」と言えることは、実社会で通用する自分になるためには、とても大事です。

今、わからないことがあっても、それは恥ずかしがることではなく、大した問題でもありません。大切なのは、知ったかぶりをしたり、それを放置したりしないで、周りの人に教えてもらったり、助けてもらったりしながら、最後にわかることなのです。

【出典：クラスがうまくいく！『学び合い』 西川純 著】

自分が子供の頃にこんな話をされても、ピンとこなかったと思います。社会に出て、いろんな人に教えてもらったり、助けてもらったりを経験してきた今だからこそ、すごく納得がいくのだと思います。私たちは人生の先輩として、「わからないことをわからないと言える」ことをはじめ、自分の思いや考えを言葉にして相手に伝える力が、本当に必要な力であることを、これからも伝えていきたいです。